



決算特別委員会



—市長質疑での質疑と答弁—

9月14日に設置された決算特別委員会は、3つの分科会に分かれて審査を行いました。9月25日に行われた市長との質疑の中から、いくつかを紹介します。

【決算特別委員会】では、市政にとって重要な事項である「決算議案」について、より詳しく専門的に審査するために、3つの分科会に分かれて審査します。それぞれの分科会は、以下の局等に関する事項を審査します。

- 第1分科会 【会計室、秘書室、広報室、契約室、企画政策室、技術監理室、総務市民局、財政局、建築都市局、消防局、交通局、市議会事務局、市選挙管理委員会、人事委員会、監査事務局】
- 第2分科会 【保健福祉局、環境局、建設局、病院局】
- 第3分科会 【産業学術振興局、経済文化局、港湾空港局、水道局、農業委員会、教育委員会】

第1分科会

平成18年度市政運営における成果と ルネッサンス構想の課題

Q 市長は、平成18年度の後半2か月を引き継いだ、市政運営において、この1年間どのような成果があったと認識しているか。また、ルネッサンス構想について、この20年間にどのような課題が残っていると考えるか。

A 昨年度の主な成果は、①自動車や情報通信、半導体などの新産業分野で企業の立地や事業の拡張が進んだこと、②本年1月の有効求人倍率(1.03)が37年ぶりの高い水準になったこと、③新しいごみ収集制度の導入により目標を上回るごみ減量を実現したことなどである。

一方、ルネッサンス構想の課題としては、昨年、北九州市立大学都市政策研究所が市民5千人を対象に実施したアンケートによると、満足度が低い項目として、①子どもを育てる環境、②一人暮らしの高齢者などの生活安定、③就職などの容易さ、④犯罪防止などがあげられる。私自身も、これらの施策にもっと力を入れてほしいという市民の期待を感じている。

また、一部の大型公共事業において、当初の目標を達しておらず、運営に関する課題が残っている。

今後は、このような課題を踏まえ、将来のまちづくりについて、多くの市民の意見を聴きながら幅広く議論を進めていきたい。



自動車部品工場の作業の様子

採算性について慎重な判断を！ —北九州空港へのアクセス鉄道—

Q 本市は、モノレールやA/Mなど過大な需要予測で重大な失敗を繰り返してきた。北九州空港へのアクセス鉄道も、採算が取れなければ負の遺産となるため、慎重の上にも慎重でなければならない。

それにもかかわらず、今年度、アクセス鉄道の整備を、国と福岡県に最重点項目として要請したのはなぜか。

A 北九州空港アクセス鉄道の事業成立の目安として、年間利用者450万人と示されたが、開港後1年間の利用実績は約128万人で、採算ラインを大きく下回っている。通常、鉄道事業は、計画が経営上適切なものでなければ、鉄道事業法上の許可が得られず、国の補助採択を受けることもできない。

そのため、採算性確保の一環として、国に対しては事業制度の拡充を、福岡県に対しては支援を、最重点項目として提案した。

もちろん、どのような公共事業でも、市民の理解と協力なくして前には進めない。ましてや、財政事情がますます厳しくなる昨今、採算性を見極めには冷静な判断が必要である。しかし、アクセス鉄道は市民の利益に直結するものであるため、今後あらゆる努力をしていきたい。